

今年の9月11日、宮古島は猛烈な台風14号に襲われました。中心気圧は915ヘクトパスカルで、陸上において観測された台風としては観測史上4番目に低い中心気圧だそうです。

恐るべし台風14号

最大瞬間風速も74.1m/sec(時速267km/h)と、観測史上7番目だそうです。ちなみに観測史上過去最高の最大瞬間風速は、66年の第2宮古島台風の85.3m/secだそうです。

要するに瞬間的とはいえ、新幹線の先頭で受ける風圧と言うことになります。想像すらできません。こんな猛烈台風で600本もの電柱が倒れる中、慣れという台風対策が行き届いているのか、人的被害が死亡1人とどまったことに驚きます。

今回の台風被害で最も象徴的なものとして、宮古島の原風景にもなろうかという風車の倒壊があげられます。



宮古島には7基(?)の風力発電用の風車がありましたが2基(?)を残しすべて倒壊もしくは甚大なる損傷を被りました。

のどかなサトウキビ畑の中、真っ白でスリムな巨大オブジェがゆっくりと羽根を回す様子は、いかにも南国特有のゆったりとした時間経過を表しているようで、とても気に入っていたので残念です。

写真) 台風の被害を受ける前の風車
池間島南部、西平安名崎でゆるやかに回る風車は、宮古島の原風景になるはずであったが。

宮古島では自然エネルギーへの移行を進めており、太陽光発電を合わせ約 4000kw 以上の出力を可能としていました。

倒壊した風車の一基がよりによって太陽光発電パネルを直撃するという不幸もあり、今後の建て直しには相当の時間がかかりそうです。

(宮古島全体の電力需要は 53000kw で、自然エネルギーは 1 割以下でした)



写真左上) 柱への損壊はなくても、風車の羽がなく痛々しい。手前のコンクリートは、休憩所のシェルターだが、これも損壊しており復旧はされていない。

写真右上) 上空からの様子。2 基を残し、他は完全に倒壊している。



写真左上) 倒壊した柱は放置されたままである。

写真右上) 柱の根元が L 型に折れ曲がっている。構造計算上は、問題はなかったであろうが、自然の力を再認識すべき光景である。



そのほかにも看板などが飛んでしまったと思われるフレームや、傾いた照明柱など数多くの台風の爪痕を目にし、8年前の神戸の震災が思い出されました。

道路の標識も飛んでしまったものも多く、残った標識も盤面の文字が読みとれません。多分、時速200kmを越える雨に打たれて塗装がうすくなったものと思われます。



写真左上) 平良市内の高木。手前の高木の上半分は、完全になくなり、残った奥の高木は、曲がったまま復旧されていない。

写真右上) ドイツ村の照明も、基壇から折れ曲がっている。

また、南国の象徴でもある椰子の木などの街路樹も、葉っぱの部分がすっかりちぎられたよう飛んでしまい、哀れにも幹だけになっていました。相当の潮風にも見舞われたことから、塩害として枯れてしまったものもたくさん見られました。

一日も早く、もとののどかな宮古島に戻ることを願っております。



写真上) 葉のないヤシや、曲がったままの低木。

写真左下) 街路樹も枝や葉のないものが見られた。

写真右下) 池間島のパーゴラの屋根は、完全に無くなっている。